

# 共生型コミュニティの誕生

少子高齢社会の小さな拠点 「那須まちづくり広場」 2024. 11. 10Ver

木村よしひろ（きむら・よしひろ）株式会社 VANS 新建大阪支部

## 那須まちづくり広場とは？

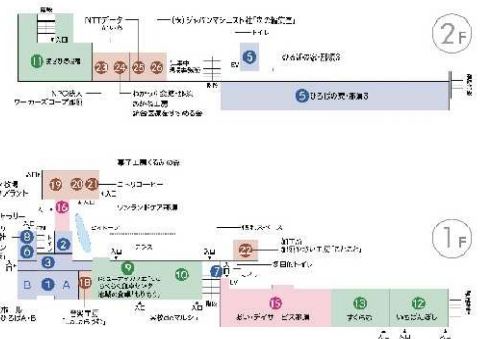
廃校となった小学校校舎と校庭を活用し、人生100年時代を支える様々な機能を持つ共生型コミュニティが、栃木県那須町に「那須まちづくり広場」の名称で2022年に誕生しました。

既存校舎の1階にはカフェやマルシェ・コンサートも可能なホール等を持つ交流ゾーンの他に障害者就労事業と高齢者デイサービス事業施設の入る福祉ゾーン、2階にはゲストハウスとセーフティネット住宅の居住・宿泊ゾーンの他に出版事務所などが入るテナントゾーン、また屋外にはケーキ工房やパン・コーヒー焙煎所などの店舗ゾーンも点在し、多種多様な機能をもつ複合建物にコンバージョンされています。同様に隣接する室内プールも要介護の方向けサービス付き高齢者向け住宅（サ高住）にコンバージョンされ、すでに生活がスタートしています。

さらに2023年には、校庭にサービス付き高齢者住宅49戸が建ち並ぶほか、隣接地には終末期を迎える方のための看取りの家も完成し、本格的に共生型コミュニティが始動しました。

さらに更なる要望を受け、現在校庭余剰地に32戸の住まいを建設中です。

このプロジェクトに僕たちVANSは2018年より関わりが始まっており、現在竣工に向けた繁忙期ではありますが、プロジェクトの経緯や内容を紹介させていただきます。



## プロジェクトの概要

これまで一般社団法人コミュニティネットワーク協会の活動を通じて、全国各地でまちづくり事業を行って来た近山恵子さんが代表を務める「那須まちづくり広場株式会社」が事業主体です。

2010年に開設したサ高住「ゆいま〜る那須」を中心に、高齢者や子ども、障害をもった人たちも含む多世代が健康で充実した暮らしが出来る「那須100年コミュニティ構想」を計画。途中東日本大震災による試練を乗り越え、検討・実践を進める中で2016年に廃校となった旧朝日小学校の校舎と校庭に出会い「那須100年コミュニティ構想」の実現を確信しました。那須町が募集した旧朝日小学校跡地利用の公募に応募し当選したことから「生涯活躍・安心な少子高齢社会の拠点」として那須まちづくり広場の事業が始まったという経緯です。

## コーポラティブ方式により企画・設計を進める

その後近山さん達から、20年以上前から参加型の高齢者住宅プロジェクトと一緒に進めている僕たちVANSに応援の依頼がありました。2018年第1期改修時の設計は、旧校舎そのままの用途変更で内装改修の範囲にとどまっていたのですが、カフェやマルシェがオープンし様々な活動を基に地域コミュニティが徐々に出来上がっていく様子を感じていました。地域の需要確認中と言ったところ・・・。

そしてその一年後、改めて小学校跡地全体を視野に入れた計画の依頼がありました。学びと交流・住まい・ともに生きあうみんなの居場所・働く場所・・・多種多様な地域共生コミュニティの全容を示した上で共同事業者・参加者を募りながら計画・設計を同時に進めて行く、コーポラティブ方式で企画・設計を進めて行く体制がスタートしました。



## コミュニティ創生の源「人生100年・まちづくりの会」

このプロジェクトは当初から様々な方々の意見を取り入れて進められています。中でも、地域の方々・事業者・起業希望者・入居希望者・プロジェクトに興味のある方等、関係するみんなが一堂に介し希望や意見を話しあう「人生100年・まちづくりの会」は毎月開催されました。途中コロナ禍で会場の中止やリモート開催等もありましたが、この「まちづくりの会」は那須まちづくり広場の基本骨格になっています。様々な方々の意見や意向をまとめるのは正直大変な作業ですが、ここでいろいろなことをみんなと話し合いみんなで決めて実践・修正していく、隠しごとのないオープンな雰囲気ですべて、新しいコミュニティ創生の源だと思います。毎回参加者全員で自己紹介を兼ねた一言を話す機会や円形でみんなの顔が見える会の形態など、お互いを徐々に理解していく仕掛けがあり、そんな対話を重ねる中で信頼関係が生まれていきます。「対話の中には他では得がたいたくさんのヒントが隠れている！」そのことを楽しみながら対話を基に企画・設計を進めて行くことは、僕たちVANSが最も大切にしている一つでもあります。



## 各コミュニティ空間の紹介

### [校舎のコンバージョン 多機能複合建物]

校舎のコンバージョンにおいては、既存建物の持っているポテンシャルを最大限生かすことを考えながら全体構成を行いました。全教室が南面する北側雁行廊下の骨格はそのまま生かしながら、北側廊下空間をとり込み、南北通風・採光に加え北側の里山空間とのつながりを生み出す「平面のひろがり」。天井を取り払い、RC梁をあらわすことで隠れた高さ1mの空間を生み出す「断面のひろがり」。この二つのひろがりを基に各所に見合った配置を検討し全体を空間構成していま



す。落ち着いた色合いに刷新された外観フレームから、様々な活動が鮮やかにひろがっています。

また40年前には考えられていなかった壁や開口部の断熱性も考慮し、寒さ対策が必要な那須地域で冬暖かく夏涼しい室内環境を確保し、住まい・生活の場としての基本性能の改善も行いました。それぞれの空間の特徴は以下のとおりです。

- ・コミュニティカフェ「ここ」やマルシェ「楽校 de マルシェ」は開放的かつ素材感ある空間に
- ・音響にもこだわった多目的ホール「広場のひろば」や発表の場ギャラリーや地域の本棚スペースも
- ・2階のセーフティネット住宅「ひろばの家・那須3」は6タイプ13戸 天井高さを利用したロフトスペースを持つ
- ・天井高さを生かした立体的就寝スペースで32人泊まれるゲストハウス「あさひのお宿」
- ・高齢者や障害をもった方々が日中過ごす・働く福祉ゾーン。高齢者デイサービスには開放的な木製浴室も完備され、外からの利用も可能。

#### [屋内プールのコンバージョン 介護型の方向けサービス付き高齢者向け住宅]

周囲を自然に囲まれた室内プールの建屋をそのまま利用し、既存フレームの天井高さとの明るさ、ひろがりを生かすために、既存トップライト上部に透明ポリカ屋根を重ねた断熱効果とルーバーによる日射調整にも配慮し、明るい天井をもつ中央にホールを配置しました。その大空間に挿入された形態で周囲に26室を配置。上部ロフト空間の立体利用や、様々な周辺自然環境を取込む開口部等により生まれた多様な居場所を包み込む開放的なワンルーム空間。

#### [校庭 自立の方向けサービス付き高齢者住宅]

校庭の、自立の方向けのサービス付き高齢者向け住宅49戸は9坪から20坪の木造住宅。全26タイプの基本プランを元に参加者との個別設計を踏まえながら全体を設計しました。2戸1の構成で全戸が三面開放と南面性を確保し、各戸が自由にできる専用庭やバルコニーを持ちながら共用の庭に囲まれる戸建て感覚の集合住宅です。校舎の交流スペースに近い位置に2層で14戸はスロープで上階へのアクセス可能。そして敷地内車道を挟んで平屋群が35戸、微妙な角度と距離で視線をずらしながら、戸建て感覚の住まいが独立性を保って配置されます。また49戸の中には新築木造だけでなく東日本大震災時



に仮設住宅として利用されていた角ログ形式の震災復興住宅の骨格を利用した住戸が7戸含まれ独特の深みを生み出しています。

### 【終末期を支える みとりえ】

終末期のみとりを担う「みとりえ」が那須まちづくりひろばと道を挟んだ向かいにオープン。程よい距離感と、常時は集会場や居酒屋等の機能を持つアットホームな雰囲気、みんなのつどい場として機能。ひのきや陶板風呂に入浴も可能です。

### 【バラエティー豊かな個人テナント達】

個人の特技を発揮した個人テナントも多数入居。こだわりのケーキやコーヒー、アイスクリーム等の飲食、タケフをメインとした自然素材の生活小物店、出版編集や書籍販売等と多岐に渡ります



### まちづくり広場の現在と今後

校庭ではサービス付高齢者住宅の工事が大詰めですが、完成した校舎など、敷地内では日々の生活や活動を基にした共生型コミュニティが既に始動しています。

同時に、隣接地の地主さんより借り受けた裏山には、子供達と大人の学びと実践の「冒険あそび場」、その隣りには障害者や大人の遊び場と仕事場が計画されています。また定期巡回サービスによる夜間も含む24時間ホームヘルパー派遣の仕組みや看取りの場所など、誰もが自分らしく暮らすために必要な支援で、まだ那須町では実践できていない、那須まちづくり広場にある地域包括ケアのサービスを地域に暮らす方々にも届ける体制を整え、空き家活用や多世代の移住促進のほかに障害者のグループホームが今後の予定に入っています。そして、那須まちづくり広場の試みが全国各地で実践できるよう準備をされています。



ここでの共生型コミュニティはもちろん「那須まちづくり広場」が核となり周辺地域と共に、お互いが支えあう関係を育んでいく、そんな関係がもうすでに始まっているのです。

希望に満ちた、でもすごく自然で当然なこの「那須まちづくり広場」のプロジェクトに参加できたことで 培った心構えとノウハウを今後色々な形で試みて行けたら・・・と思いながら、年明けの引き渡しに向けて精一杯頑張ります。

### 那須まちづくり広場の受賞

2018年に第9回「地域再生大賞」関東ブロック賞、2019年に第3回「めぶきビジネスアワード」奨励賞、同年に国土交通省「人生100年時代を支える住まい環境整備モデル」に採択、2020年に第37回地域づくり表彰—国土交通大臣賞「小さな拠点部門」を受賞しています。